

指定医研修プログラム作成のための研究

難病指定医等に対する e-learning 教材（案）のコンテンツ評価
に関する研究

研究代表者 曾根 智史（国立保健医療科学院、次長）
研究分担者 羽鳥 裕（公益社団法人日本医師会常任理事）
王子野麻代（日本医師会総合政策研究機構主任研究員）

研究要旨

作成した研修コンテンツ案をマウントした e-learning システムのプロトタイプを用いて、難病指定医等（約 30 名）を対象とした研修プログラムの試行及び評価を計画し準備を進めたが、新型コロナウイルス感染症の流行で、医療関係者が多忙となったため、実施を断念せざるを得なかった。

A. 研究目的

本研究は、難病指定医等に対する指定難病に関連する知識、技術を効果的に普及するための研修プログラムを開発することを目的とする。本分担研究の最終成果物は、難病指定医等を対象とした、研修プログラムのコンテンツ案及びそれを効果的に普及するための e-learning システムのプロトタイプである。

研修プログラムのコンテンツは、①指定難病制度の概要、②臨床調査個人票の記載にあたっての全般的留意事項、③領域別（疾患群別）の指定難病の申請にあたっての留意事項で構成される。コンテンツ案をマウントした e-learning システムのプロトタイプを用いて、難病指定医等（約 30 名）を対象とした研修プログラムの試行及び評価を計画した。

B. 研究方法

対象は、難病患者の診療にあたる、またはあたる可能性のある臨床医 33 名である。

調査票は、無記名・自記式で、属性については、性別、年齢、医師免許取得後年数、開業医・勤務医の別、従事施設の所在地、主たる診療科、難病患者の診療の有無、難病指定医の有無を尋ねる。また、e-learning 教材（案）の 2 つのコンテンツ（案）①難病対策の概説、②改正臨床調査個人票記入にあたっての留意事項、のそれぞれについて、教材の閲覧に要した時間（分）、わかりやすさ（非常にわかりやすい～非常にわかりにくい、の 6 段階）、わかりにくかったところ、教材の量（多い、適当、少ないの 3 段階）、教材全般に関する改善点、を尋ねる。

調査票は、メールで、研究代表者からの依頼文書、調査票、研修プログラムコンテンツ 2 件を添付して、対象者に配布する。回答済み調査票ファイルは、研究分担者（王子野）がメール添付で回収し、その後、送付者（回答者）名がわからないように回答ファイルのみを分析担当の研究代表者（曾根）に送付する。

各コンテンツについて、教材の閲覧に要した時間（分）、わかりやすさ、教材の量については、集計を行うとともに、わかりにくかったところ、教材全般に関する改善点（いずれも自由記載）については、内容ごとに分類し整理する。また、属性別に集計し、属性による大まかな傾向を把握する。以上の結果より、コンテンツ改善のための提言をまとめる。

（倫理面への配慮）

国立保健医療科学院研究倫理審査委員会に申請を予定した。

C. 研究結果

難病指定医等に対する e-learning 教材（案）のコンテンツ評価に関する研究については、対象者の選定、調査票の開発、研究倫理審査委員会への申請書類等の準備を進めたが、実施直前に、新型コロナウイルス感染症の流行が顕著となり、その対策で調査対象の医療関係者が多忙となったため、実施を断念した。調査票（案）を【資料 4】に示した。

D. 考察

今年度は、新型コロナウイルス感染症流行のために実施できなかったが、難病指定医等に対する e-learning 教材のコンテンツ評価に関する調査を時機を見て実施し、コンテンツの改善に役立てる必要がある。

E. 結論

コンテンツ案をマウントした e-learning システムのプロトタイプを用いて、難病指定医等（約 30 名）を対象とした研修プログラムの試行及び評価を計画し準備を進めたが、新型コロナウイルス感染症の流行で、医療関係者が多忙となったため、実施を断念せざるを得なかった。

F. 健康危険情報
なし

G. 研究発表
1. 論文発表
なし
2. 学会発表
なし

H. 知的財産権の出願・登録状況
なし